



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立1986年

2006～07年度クラブテーマ
魅力あるクラブ活動

会長 吉田 章
幹事 小林 義勝

第1010回例会

平成19年3月22日 (18:30～19:30)



率先しよう

- ソング
 - 奉仕の理想
- ビジター
 - 新極真会 滝嶋邦彦様
- スマイルBOX
 - 吉田章会長 (本日は、新極真会 滝嶋邦彦様大変素晴らしい卓話ありがとうございました。)
 - 小林義勝幹事 (本日は滝嶋様お忙しいところ、卓話ありがとうございました。大変勉強になりました。)
 - 林利勝会員 (新極真会の滝嶋邦彦様素晴らしい卓話ありがとうございました。)
 - 石田捷一会員 (片倉先生にお世話になりまして、初孫が誕生しました。又連続欠席しました。)
 - 佐藤清作会員 (先週は又又無届け欠席をしてしまいました。申し訳有りません。)
 - 道又一生会員 (長い間欠席してご迷惑をかけ申し訳ございません。また用事のため早退させていただきます。)
 - 成井正之会員 (滝嶋様ようこそ。欠席2週続いてしまいました。気持ちを入れかえて出席したいと思います。)
 - 金子大成会員 (滝嶋分支部長、卓話ありがとうございました。)
 - 池田浩章会員 (先週は欠席誠に申し訳ございませんでした。藤本さんありがとうございました。又本日は新極真空手、滝嶋邦彦様卓話ありがとうございました。)
 - 鈴木孝幸会員 (滝嶋先生、本日は素晴らしい卓話ありがとうございました。お忙しいところ無理にお願いして申し訳ないと思つたのですが、先生にお願いして本当に良かったと思います。次回はずいぶん“型”を教えてください。)

■幹事報告

- 会長エレクト研修セミナー次第の送付について：ガバナーエレクト事務所
- 2007年7月表彰品一部改定のお知らせ (事務連絡)
- 米山梅吉記念館春季例祭開催のご案内：(勸米山梅吉記念館)
- 米山梅吉記念館館報春号のご送付について：(勸米山梅吉記念館)
- 第25回全国ロータリークラブ野球大会の試合日程について(試合日6/3(日))：全国ロータリークラブ野球大会事務局
- 次年度(2007-08年度)雑誌委員長への「友」誌送付についてメ切4/15：ロータリーの友事務所
- 次年度県南区会長・幹事会開催のお知らせ(4/18(水)18:30～ホテルサンルート白河会費5,000円メ切3/30(金))：次年度県南区ガバナー補佐鈴木邦典
- 創立20周年記念式典へのご案内(4/21(土)登録13:00翠光苑登録料10,000円、メ切4/14)：須賀川南ロータリークラブ
- 創立20周年記念ゴルフ大会のご案内(4/22(日)集合8:00参加費3,000円福島石川カントリークラブメ切4/14)：須賀川南ロータリークラブ
- 「卓話」講師のご案内について：(株)ジェイ・シー・アール東北支店

▶第1008回例会出席状況(H19年3月8日)

基本会員	55名
出席会員	34名
欠席会員数	21名
出席率算定数	50名
出席率	68.00%
メーキャップ	10名
更生確定	88.00%

ホームページURL (PC版) <http://www.shirakawa.ne.jp/~nishi/rc> ホームページURL (i-mode版) <http://www.shirakawa.ne.jp/~nishi/rc/i.html>

▶例会日：第1・第3木曜日(12:30～13:30) その他の木曜日(18:30～19:30)

▶例会場：白河市新白河駅前 ホテルサンルート白河

本日のプログラム

■会長の時間

吉田章会長

皆さん、お晩でございます。今日のお客様をご紹介申し上げます。新極真会白河支部長滝嶋さんでございます。今日は卓話をお願いしてございますので、是非色々な話を聞かせて頂きたいと思っております。

先週の会員卓話で、金子先生の健康シリーズについて卓話がありました。その際に、健康体操が有りましたが、皆さん、実施されているかどうか。なかなか実施されている方は少ないと思いますが、毎日の事を少しづつ、いっぱいやろうと思うとなかなかできないと思いますので、少しづつ毎日続けると言う事で、メタボリックシンドロームは解消できるのかなと思います。現代の医学では老化を防ぐのは大変難しい事ですが、金子先生がお話したように、環境を変えとか、生活を変えと云った事によって、老化を防ぐ事はできる。それに体操を取り入れて、筋肉を付けて行けば、引き締まった体ができますから余計な脂肪は付かない、良い方向に向くと思いますので、自分の体を維持し健康で長生きする為にも自分の事ですので、是非実施して頂きたいと思います。

■野球愛好会

試合日程が決まりました。6月3日(日)です。時間等と対戦相手はまだ決まっています。沖縄コザRCの45周年の次の週なので、両方出られる方は忙しいかも知れませんが。応援に来て頂ける方も、6月3日はできれば空けて欲しいと思います。

■プログラム

○講師紹介

鈴木孝幸会員

滝嶋先生の御紹介を致します。新極真会白河道場道場長であります滝嶋邦彦先生です。生まれは1963年、北海道出身でございます。その後、茨城県に移りまして、茨城県の高校を卒業しております。福島大学経済学部に入学され、入学されてから極真会館三瓶道場に入門しております。その後福島大学極真空手空手道部第3代主将になりまして、各大きな大会で優秀な成績を納め、海外遠征を含め活躍しております。1996年に常設道場極真会館白河道場を開設しております。その後、骨髄バンクのドナー登録、ドナーとなりまして骨髄を提供すると言う経験もあります。2001年に30人組み手を完遂しまして、三段位を取得、その後ミャンマーに遠征しております。現在、北真船に道場を新築しまして、社会教育としての空手という物を目指して、各ボランティア等も行いながら、積極的に地域貢献をされている方でございます。

■ゲスト卓話

滝嶋邦彦様



白河市の北真船で新極真会白河道場と言う空手の道場をやっております。今日は宜しくお願ひ致します。鈴木さんからお話を頂きまして、最初は冗談かなと思っております、このような席で話しをしろなどと、まさか本気の沙汰で言っているとは思えなかった物です。私、今年44才になったんですが、ロータリーではどのくらいの年齢の方がいらっしゃるんですかと聞いたら、どうも私共よりも御高齢と言うか、年長の方が殆どで、そんな方の前で私が一体何を話せば良いのかなと思ってしまうんですけども。空手の道場、職業的に言うと税務署に出したりする時は自営業と言う形なんですけども、その自営業の中でも空手道の道場なんて言うのは滅多に見ないと思いますので、この男がどう言う事を考えて空手の道場をやっているのかなと言うくらいの気持ちでお聞き頂ければ幸いです。時間を30分くらい頂いたんですが、道場で若い奴等に話したりとか、雑談で話しをする事は有るんですが、まとめた時間を話しをさせて頂くのは初めての経験なものですから、30分が長いのか短いのか全然分かりません。もしも不幸な事にあまりにも早く終わってしまうと、残念ながら皆様に疲れてもらうように体を動かしてもらおうしか有りませんので、若干覚悟だけして置いて頂きたいと思ひます。

まず、私が空手を始めたきっかけは、私達が1番最後くらいの年代なんですが、「空手バカ一代」と言うマンガをやっていました。それを見て空手にあこがれを持ちました。私はもともとジャーナリストを志望してまして、高校大学とジャーナリスト志望、新聞記者志望だ

ったもんですから、その中で、途中で朝日新聞の阪神支局が襲撃される事件とかが有ったりして、ジャーナリストとしてやって行くからには、権力から命を狙われるくらいにならないと本物じゃない。その時は自分の身を自分で守れなければ本物じゃない。やっぱり空手をやらなければいけないかと思って、福島大学に入った時に私の先生である三瓶啓二と言う先生なんです、極真空手の世界に於いては偉業を成し遂げた、全日本三連覇、百人組み手と言う物を成し遂げた先生なんです、丁度その方が東京からお戻りになって始めたと言う事だったので、そこで空手を始める事になりました。

空手はやりながら新聞社の方を希望していましたが、朝日新聞、毎日新聞あたりを受けていたんですが、非常に競争率が高い上に、東京の有名大学の方々が受けてなかなか受かりません。いよいよ年齢制限が近いと言う時に、このまま行ったら新聞記者になんかなれない。先生に、「空手も好きなんです、そろそろ本腰入れて勉強しないと年齢制限に引っかかってしまうので、1回空手を辞めます。」と言う風に酒を飲んで席で先生に話しをしたら、「お前は間違っている。新聞記者になるのは良い、でも空手をやりながら新聞記者の勉強をして新聞社に受かるのと、空手を辞めて新聞記者になる勉強だけをして新聞社に受かるのとどっちが良いと思う。」と言われて、それは空手をやりながら新聞記者の勉強をして受かった方が良いじゃないですかと言ったら、後はお前がやるだけだと言われて、つい酒を飲んで、分かりましたと言ってしまって、それでその年も落ちまして。翌年又同じような話になって、先生に辞めます。無理です。と言ったら、バカ野郎、辞める辞めるって俺のこと嫌みみたいじゃないかと言われて、酒を飲んでいたので、冗談半分嫌いですと言って、一旦道場を離れて、新聞社の試験に臨みました。その年、春くらいに道場を離れて、夏に新聞社の試験が有ったんですが、それまで全然勉強してませんでしたので、本気でやり始めたのが1ヶ月2ヶ月ですか。新聞を本気で隅から隅まで青鉛筆で引いて読んで、抜けている所があるとそこもつぶして読んで、大事だと思う所は次に赤鉛筆で線を引ながら読んで、後は大事な所を書き出したりしながらやって、1ヶ月2ヶ月で受かる訳が無いと思っていたもんですから、履歴書を出す時に、朝日新聞は普通に出して、家の親父が朝日新聞をずっと読んでいたので朝日新聞を第一志望で受けまして、毎日新聞も第二希望として受けていたんですが、絶対受からないと言う自信が有ったので、毎日新聞の履歴書に、第一志望は朝日新聞、読んでいる新聞は朝日新聞と書いて履歴書を出したら、なぜか毎日新聞だけ一次試験が通って、これは参ったなと思ったら、案の定、面接でそこをつつかれて、君はどうして毎日新聞を受けるのにこう言う事を書いてるんですかと言われて、受かると思わなかったのでも言えませんので、朝日新聞とうちが受かったら、当然朝日新聞に行くんですよと言われて、毎日新聞に絶対来ますと言うのも、そこで書いていて白々しくなってしまうので、受かったら考えますと、その場で汗流しながらごまかしたんですけども、案の定そこで落ちました。翌年も、朝日新聞は落ちて毎日新聞の一次試験だけ通ったんですけど、前の年の情報が流れているのか、嫌がらせのようにいじめられまして、新聞社は落ちました。本社採用の年齢がそこで終わってしまっていて、支局採用は有ったんですが、本社採用だけを狙おうと思っていたので、それから、新聞社に入るとか親にも言っていて、大学時代、勉強もちゃんとやっていなかったの、さあどうしようかと思って、それまで三瓶先生から言われて、空手道の指導員と言う形で、白河を含めた県内各地の道場を回って指導などをしていたもんですから、空手の指導員と言うか、1つの道場を持たせてもらおうかなと言う1つの考えと、教員の資格を取って教員を受けてみようかなと言う風に2つ考えまして、教員の免許を取るためにはもう1回大学に通うなり、通信教育を受けるなり、試験を受けて2年くらい掛かる。空手と言う物を通して人を教えると言う事は、幸いにも先生に請われて指導をしていましたので、そう言う道を通って行けば、教える事は2年間と言うブランクが無くてできるという事で、そこで、じゃあ同じ人を教えると言う道、自分の中ではジャーナリストになるのも、ロータリーの皆さんの理想と同じで、世界の平和であるとか、社会を良くしたいとか、そう言う事でジャーナリストを目指してましたので、そっちの道は無くなったけども、空手と言う物を通して、社会を少しでも良くするような手だてが有ればなと言う事で空手と言う道を選ぶ事に決めました。ただ、うちの父親は茨城で公務員をやっているんですが、空手でやって行く事にしたと報告をした時には、そんな物で食えるのかと。空手は趣味で良いんだ。

そんなもんで食えない。どこかの会社にでも就職しなさいと言われてたんですが、空手で食えるかどうかは分からない。でも空手で食えるからやるんじゃないかと、空手をやりたいからやるんだ。やりたいから食って行くために努力をするんだ。だから俺は空手でやって行く。それで大めめをして喧嘩をして、じゃあ好きにしろと言う形で空手の道を生計の道にしようと覚悟を決めたんです。

なぜ白河に来たかと言いますと、先生の所に戻りまして、福島支部を先生が持っていて、その下に独立の道場で支部と言う形を持たせて下さいと先生にお願いして、良いよと。何処でやるかと言うので、最初は須賀川市と言う話しが有ったんです。須賀川市で1年くらいは若い寮生と一緒に1からやらせて下さい。1年間は離れた人間なので、もう1度若い連中と一緒に寮に住み込みでやって、みんなの所で稽古をしてから、支部を持たせて下さいと言う事で、須賀川支部と言う予定でやっていたんですが、組織上の色々な都合が有りまして、須賀川ではできないと言われてまして、何処でも好きな所でやって構わないと。元々三瓶先生が道場を持っていた地区で、どこかの道場でやっても構わないからお前が引き継げと言われて、その中で何処を選ぼうかと言った時に、当時1番道場生が少なかったのが白河だったんです。私が来た頃は実際に練習に出ているのは2人くらいしかいまして、道場を頂いて、支部と言う形でやらせて頂くからには、最初から人がいる道場から始めれば勿論楽なんですけど、それでは自分の1から始めよう、親父と喧嘩してまで始めようと言った事とは違うんじゃないかと思って、先生が良いと言った中では1番少ない場所を探して白河に来ました。道場を出した時に、適当に1年で30人、3年で50人、5年で100人の道場生にしますなんて言って始めたんですが、言ってやっていると何とかそうなる物で、大体それに近い人数を1つの道場で持つ事ができるようになったんです。

私がこちらに来て空手を、1つの道場主として始めるようになったのが29才の時です。まだ30にもならない若造が、勿論自分よりも若い青少年、高校生や一般でも若い人には私の方が経験の有る空手を教える事もできるし、若干は彼らより長く生きていればアドバイスもできるかも知れませんが、私に子供さんを預けてくれる親御さん達は、当時は私より年上の方が殆どでしたので、そう言う人達を前にして、何を教えて、お母さんやお父さん達に語って行く事ができるかと思いつながらやっていました。うちの道場のポリシーと言うか、キャッチフレーズとして「本当の勇気が未来を作ります。本当の勇気を身に付けましょう」「私達は空手は人が自己を高め、生き方を求めるための手段、つまり道であり、道場は人が集まる事により、互いを磨き合い高め合う道の場ではなくてはならないと考えます。私達は空手道を通して強く、何よりも自己に対して強く、真に優しい人間になりたいと願っています。」これがうちの道場のキャッチフレーズです。この中にも有るんですが、自分を含めて、空手を通して自己を高めて成長させたい。道を求めたいと思ってやっています。自分よりも年上の人達、人生経験がある人達、その人達のお子さんを預かって、そんなにたいそんな事が語れる訳も無いし、人生経験も積んでいない。でも人が集まる事によって、子供達が集まる事によって刺激を受ける、道の場、道場と言う場所を提供する事はできるんじゃないか。最低限それはできると言う事を考えて、そう言う風な場を提供しようと。どう言う場を作って上げるかと言う事を、まずはテーマにしています。その中で一貫して学校ではない、スポーツクラブにもならない、スポーツ少年団にもならない。あくまでも自分の考えた道場としての姿をその場所にずっと持って、そこに子供達が集まって、喧嘩をしたり、痛い思いをしたりする事で、磨き合う、そう言う場を提供しようと思ってやっています。うちの道場はトラブル歓迎で、子供達が喧嘩をしそうになっても、ある程度止めません。少しやらせてから止めます。ケガをしそうな事をやっても、ある程度はやらせます。トラブルが有ったり、壁が有る事が絶対的に必要だと思っていますので、壁を越える事ができなければ人間は大人も子供も成長できませんので、あまりにも今の学校は、トラブルが起きる前、問題が起きる前、リスクマネージメントの考え方が教育の場にも徹底的に入っていますので。リスクが無ければ人は成長しないと思っていますので、道場の中ではトラブルが起きるのをまず見守ろう。トラブルが起きた時に、どうやって大人が適切に関わるかで、その子が成長できると思って、それだけを念頭に置いて最初はやっていました。キャンプに連れて行ったりするんですけど、髪の毛を掴む喧嘩が有ったり、最近はその言う子供は少ないですけども。そう言う場としてやって行こうと。

スポーツクラブじゃないのでキャンペーンは張らない。よく春の入会キャンペーン、今なら入金半額ですとか、空手着プレゼントとか有るんですけども。実際問題として我々の組織でも、そう言う風にやっている道場が沢山あります。私も私の先生もその辺は考え方が一致してしまっていて、キャンペーンは張る必要は無い。逆に道場にどうしても入りたい人が入って来れば良い。入って来て、例えばお金が無いのと言ってくれれば、相談を受ければ胴着くらいプレゼントする事は有るし、会費を待つ事も有ります。でも最初から、今だったら空手着もらえるから入ろう。入会金が半額だから入ろう。それでは入ってもらってもしょうがないので、こちらはそう言う風にはしないとと言う姿勢でやっています。スポーツ少年団も盛んにやっていますけども、親御さんが参加して子供達を育てる場で、それが学校とスポーツクラブ、スポーツ少年団、空手の道場、どれが良いどれが悪いでは無いですけども、別個の物として存在する事にうちは意味が有ると思ったんです。親御さん達には、お餅つきであったりお手伝い頂いたりしますが、父母会とかを作っている道場も有るんですが、うちは作らない。父母会を作って親御さんに意見を言ってもらいよりも、個人として意見を言ってもらえるのは聞きますが、団体でやって道場としての場が崩れてしまうのは嫌なものですから、父母会は作らないと言う形で、あくまでも自分の考える道場と言う姿を、ずっと守って行きたいと思ってやっています。

段々そうやってやって行く内に、子供達に色々教えたりしながら、道場では叩く事も有りますし、今の子供はおとなしいんですけども、何年前前には、大人をなめているような子供もいるし、それで凄く怒った事も有ります。私の目指す理想は、平成のクソジジいで、昔町にいた、一寸行儀の悪い事をする、このクソガキと言って頭を叩いていた、ああ言うクソジジイになるのが夢だと、あちこちで言っていたんですが、今もそう言うクソジジイになりたいな。町中の子供に嫌われ者になっても良いと思いつながらやっています。

子供達に空手の場を提供して教えて、勿論空手と言う技術を教えながらやって行く中で、空手と言えば、本当に単純な基本稽古を毎日毎日繰り返します。ゲーム性が少ないです。他のサッカーなどはボールを追うだけ子供達は楽しいんですが、ある程度できてくると、なかなか楽しいと言う事が無いんですね。意識が高くなければ、この稽古は何にしよう、自分はどうしようとか考えられませんので、子供達にとっては最初は同じ事の繰り返しは苦痛だと思います。でもそれを繰り返す事、そう言う単調な事を繰り返せる事と言うのは、凄く大事な事で、我慢強くなるでしょうし、根気も付くだろうと思うんです。空手の場合には、練習とは基本的には言わないで稽古と言います。稽古と言うのは、古きを学び古きを知りそこから先人達の伝わって来た物を身に付けて行こうと言うのが稽古です。そう言う事をやって行く内に、私達がやらなきゃいけないのは、勿論空手の技術を教えるのは大事ですけども、空手の技術を教えながら、空手を繰り返しながら、日本の空手と言う文化を残して行く、伝えて行く、これも大事な役目なんじゃないかなと言う風に、数年前から思うようになりました。

それを思うようになったのは何かと言うと、他で審査会、帯の試験を受ける時に、親御さんが子供さんを連れて来て、一緒に試験を見ているんですが、ガムを噛んでいたり、帽子をかぶっていたり、そう言う方がいらっやいます。それをいちいち注意しなくちゃいけない。帽子は脱いで下さい。ガムは止めて下さい。そんなのは当たり前で。建物の中で帽子をかぶるのは西洋文化では有るのかも知れませんが、日本に於いては、私達は子供の頃から、建物に入ったら帽子は脱ぎなさい。靴は揃えなさい。そう言う事は言われて来ましたので、じゃあ何で帽子をかぶっちゃいけないんだろうとか考えて、昔は日本には帽子は無かったですから、菅笠であったり、そう言う物で目を隠す、頭を隠す。頭は大事な所だから隠す。目は相手に心を読まれないために深くかぶって目を隠す。昔の日本はそのまま相手のお宅に入って言ったのでは、相手に敵意を持っていると言う事ですから失礼に当たる。余所へ言ったら頭をさらして目を見せて帽子を脱ぐと言う事だったんだと思います。そう言う事を子供達に言いながら、だから帽子は脱ぎなさい、サングラスは外しなさい。そう言うのを他で見たりして、そう言う事も大事なんじゃないかなと言う風に思いつて来て、そう言う役目も有るだろうと。文化と言うのは、努力をしてエネルギーを注がなければ伝わらない。箸の持ち方もちゃんと教えると言うエネルギーを、親が子供に順番に注いで行かなければ、ちゃんと箸を持てる子供はいなくなる。今の日本人のうちの道場生よりも外国から

来る道場生の方が箸の使い方がよっぽど綺麗です。彼ら外国から日本に空手を学びに来る人は、日本の文化に触れたいと思って来ていますので、箸の使い方とかを練習して来るんです。日本人の若い奴がこんななって持っている所を、きちっと箸を使って食べる。これじゃあいけないんじゃないか。やはり日本人には日本人の持つ良い所。勿論悪い所も有るでしょうし、外国の持つ良い所も有ります。そう言う物を伝えて行くのも私達の仕事じゃないのかなと、最近では思っています。

ここの所思うのは、各家庭に於いて椅子生活が殆どですから、正座をしている子供達は少ないですね。道場では勿論正座をします。人が多くて分かれて稽古をすると必ず正座をします。足を崩して良いよと言うと、失礼しますと言ってあぐらをかきます。幼稚園生も小学生も大人もきちっとやっています。あぐらまでは許す。正座は元々正しく座ると書きますけれども、僧侶達は修行のためにあの姿勢でやっています。あぐらも修行の流れで座禅とか有ります。体育座りとかは後に入って来た物で、あれは全然修行的な物ではないです。うちの道場では正座をするし、あぐらをかきます。正座の姿勢が悪い子供がいると、一寸座ってごらん。正しく座っている時は体も心もきちっとしています。横を向いて雑談をしている子供っていないんです。雑談をしている時と言うのは姿勢が崩れています。正しく座って正座している時に雑談をすると言う事はなかなかできません。正座と言う型が決まると、心も体もきちっとして身を律する心を律する事ができるのが正座だと思っています。姿勢が悪い子供は、胸を一寸押してやるとすぐに崩れてしまうんです。正しく座っているとか一寸押したくらいではびくともしない。腰が決まるんです。正しく座ると体に力が入るだろう。正しく力が入ったら心にも力が入るんだから、正しく座りなさいよと言ってやると、みんなビッと。少しづつそう言う物を伝えて行かなければいけないかなと思っています。

お茶の心も、お茶をやられている方もいらっしゃるかも知れませんが、私は茶碗を回すのは、何でこんなに回すんだろうと思ったら、たまたま我々の団体の世界大会、国際大会の時に、郡山の人が略式のお茶の座を作ってくれて、飲んで行けと言われて、何で回すんですかと聞いたら、茶碗には模様が入っていて、その模様が見えるように出すんだけど、受け取った人がそのまま飲むと、綺麗な模様が有る所から飲んでしまう。日本人の心として私などではもったいない。私がお茶を使う事で、後から使う人が少しでも汚れてはいけないと言う、謙虚な日本人の文化が有るから、回してずらして飲んで。そして又ずらして返す方に綺麗な模様を見せて、有り難うございましたと言う心を示して返すんです。こう言うのって日本人の文化だな。美しいな、すてきだなと言う風に思っていて、こう言う物を伝えて行きたいと思っています。

空手に於いてはオスと言う挨拶をするんですけど「押忍」と書くんです。私の好きなのは一所懸命。元々は一生懸命と言うのは一所懸命が間違っって伝わって一生懸命になったと聞いた事が有るんですが、今与えられたその場、自分が望む望まないに関わらず、その場に於いて全力を尽くす、命がけ、懸命ですね。押忍もそれと一緒に、例えば、自分が今こう言う練習をやりたいと思いつつながら違う練習をやりたいと言われて、嫌々ながらやるんじゃなくて、忍ぶんだけど、前に出て忍ぶ。押忍の心で押しながら忍んで全力を尽くす。そう言う心が押忍の心だと言われて、私の一所懸命と一緒にだと思って好きなんですけども。そう言う心がなかなか今は無いのかなと。覚悟が無いと一緒になんですけども。そう言う所が空手を通して、とにかく今与えられた所で、こんな仕事入ったけど嫌だとか言うんじゃないで、今与えられた自分が入っている場所で全力を尽くす。そこから何か見えて来る物が必ず有ると思うので、子供達には難しいですけども、段々に伝えたら良いかなと思っています。

それが1つの覚悟ですね。覚悟をする、覚悟を身に付ける。私の中では1度骨髄提供をする機会に恵まれて、丁度うちの3番目の子供が生まれる予定日くらいが骨髄を取る予定の日で、骨髄バンクの仲間からも、俺らが言うのも何だけど、もしもドナー提供で失敗して死ぬとは行かなくても後遺症が残ったらどうするの。空手やれなくなっちゃうんじゃないのと言われて、その時は、もしも最悪の場合、なりたくないですけど、車椅子になったら、その姿勢で、車椅子で空手を教えます。それで空手を教えれば教わっている人間達はもっと幅が広がるでしょうし、自分でもっかくなれるような気がしますから。その時はその時ですくらしい感じでいて、実際になった時はど

うか分かりませんが、それも実は楽しみだったんです。もしもそうってしまった時に、俺はこんな事を言っているけども右往左往するんだろうか。それとも凛としている事ができるんだろうか。色々な事を考えて。幸いにも何もなく提供する事ができて今に至っているんですけども。

そう言う風な文化を伝える事を、子供達に文化的なことを伝えると言う事も、今の子供達にとって非常に大事な事だし、今の社会では大事な事なのかなと。今の子供達は歩かなくなります。私を含めて、勿論学校には歩いて行っていると思います。今うちの子供が学校へ行っていますが、雨の日になると公衆電話に子供達が並ぶそうです。親御さんに電話をして荷物一杯有るから迎えに来て。逆に雨が降ったから子供が可哀想だから迎えに行く。そう言う親御さんが私の回りに一杯います。それはおかしい。雨の日には雨の日にはしか見えない風景が子供には有りますし、雪の日には雪の日にはしか体験できない経験が有ります。暑い時にも有ります。重荷物が一杯有ったら分けて持って帰れば良い。その歩く事が前頭前野なんです。前頭前野を鍛える事が感情を抑制する力を付けると言われます。歩くのが非常に大事だと言われます。昔は歩いて歩いて歩いて、だから人物ができた。大人物が育ったと言われていまして、とにかく歩かせて下さい。歩かせたいと思っています。歩かせる事のできない親御さんが多い。子供が我慢ができないじゃなく、親御さんが子供を我慢させる事ができない。親御さん自身が我慢ができない。子供に泣きつかれたり子供がだだをこねると、親が我慢をできないで負けてしまい子供の我慢を聞いてしまう。そう言う親御さんを沢山見えています。それが残念ですね。道場ではそう言う風にしないで下さい、歩かせて下さい。空手を始めてもすぐに辞めたいと言ったので辞めまうと言う親御さんもいるんですが、せめて1ヶ月でも良いから我慢をさせて下さいと言っているんです。辞めるのは良いです。お金をもらって教えていますから、選択権は親御さんやお子さんに有りますので。でも辞めるでも1ヶ月我慢しなさい。1ヶ月我慢したら辞めましようとか、少しでも良いから我慢をさせて下さい。大体は子供に負けて直ぐ辞めさせたいと言う親御さんは、その段階でダメなんですけどね。ここの所多いです。一寸残念です。とにかく歩けるようになって欲しいと思っています。是非お孫さんが迎えに来てくれと言ったら歩けと言って頂いて。うちは台風で身の危険が有る時以外は歩いて来いと言って、1番上は雨の日には歩くのが大好きなんですけども。そう言う風な単純な事からしか我慢強い子供であるとか、今のおかしな世の中を直して行く事は、変えて行く事はできないんじゃないかと思っています。その為にも、我々はお母さん方は子供に何を見せられるかと言ったら、我々は生き生きとして大人になる事は楽しいよ。頑張ってるやっていると楽しいんだよと言う事を見せて行くのが1番かなと。私自身10代より20代の方が楽しかったんです。20代より30代が楽しかったんです。楽しかったと言う事じゃないんですけども、三段の審査、30人組み手をやった後などは家に帰って来て、ブドウジュースのような血尿が出て、体がボロボロになってひどい目に遭って、その2週間後にミャンマーに先生と演舞に行くと、ダメージが残っていたので、肉離れは起こすしひどい目に遭ったんですけど、でもそう言うのに会って凄く楽しいなと思って、30代より40代を楽しくしたいなと思って今やっています。

微力ではありますが、まだまだ何が正しいのか、何をどうしたら良いのか、はっきり言って分からない道も一杯有りますけども、何とか空手と言う物を通して、日本の良い物を残して、良い物を子供達に伝えて、子供達が良くなるようにできたらと思います。空手をやって箸を持つ事を練習しようと思ってくれたり、指を指すのでも手で指を指すのではなくて、日本舞踊でもそうなんですが背中からすっ指せば、所作が美しくなるし、すてきになって来るので、そう言う所まで含めてやって行ければ良いかなと思っています。これからうちの道場は場を提供する事が1番。私自身もまだまだ勉強したり、成長する過程ですから、色々な方々と触れて、話しをする機会が有ったり、場を設けたりしながら、うちの若い者にも色々な方と触れたり、色々な文化と触れたり、色々な経験と触れる事で伸びてもらおうようにしたいなと思っていますので、これから、ロータリーの方さんにもお世話になる事が有るかも知れませんが、その時は宜しくお願い致します。

今日はこう言う時間を与えて頂きまして良い経験ができました。本当に有り難うございました。